

第12回区政改革懇談会・議事要旨

日時 平成21年2月20日(金)、19:00~21:00

会場 サンパール荒川 末広

議事要旨

開会

1. 座長あいさつ

- ・ 前回の懇談会の記録について、委員からの意見があったため修正した。よろしければ、来週にはホームページに掲載する予定である。
- ・ 前回までは子育て、福祉、防犯の3テーマについて検討と発表を行ってきた。次回はよいよ提言報告会である。今日は、各グループの提言書案を確認いただき、次回の発表者を決めてほしい。

2. 平成21年度の区政改革懇談会について

○ 総務企画部企画担当課長

(資料「区政改革懇談会アンケート集計結果」、「平成21年度の区政改革懇談会について」の説明)

○ 委員からの意見

- ・ 地域によってグループ人数の差があり、少ないグループではこれ以上議論するのが難しい。全体で議論をする機会を設けて欲しい。
- ・ 地域に関わらず、区全体を対象とするテーマもある。提案がより実現しやすくなる検討方法を選びたい。
- ・ 今年度は、地域ごとの特徴がとてもよく把握できた。今後はより一歩進めるため、全体としての討議を希望する。
- ・ 平成21年度の懇談会は、「地域コミュニティ力をいかに高めるか」というテーマで進めるのか。コミュニティは区政の基本となるものであり、区政をどう改革するかは重要である。

○ 座長

- ・ 今日出された意見を踏まえて、今年度よりもテーマを絞った検討方法を提案していきたい。事務局から例として、議論の中でもよく出てきた町会との合同開催によるシンポジウムが挙げられている。

○ 総務企画部企画担当課長

- ・ その地域に特化したテーマを取り上げれば少人数であっても進めて頂きたいが、選んだテーマが類似していれば、地域別の枠を超えていっしょに議論することも考えられる。

○ 総務企画部総務企画課長

- ・ 区政にとってコミュニティの視点はとても重要であるため、その中からテーマを絞り込んで頂きたいが、各グループの検討結果によるので柔軟に対応したい。

議事要旨つづき

3. 区政改革懇談会提言報告会について

○ 総務企画部企画担当課長

(資料「区政改革懇談会提言報告会」の説明)

4. グループ討議

【グループ討議の結果まとめ】別紙参照

5. 次回の懇談会について

○ 座長

- ・ 今日、平成21年度の進め方についてもグループ討議がされた様子である。これまでの検討結果を尊重し、より具体化するためぜひ4月からも参加いただきたい。
- ・ 次回は3月20日(金・祝)10:00~12:00に提言報告会及び懇親会を行う。

以上

第12回 区政改革懇談会 グループ討議の結果まとめ

平成21年2月20日(金)午後7時～9時 @サンパール荒川 末広

<南千住グループ>

1. 来年度に掘り下げたいテーマなど

【地域の人材を活用するための人材登録制度】

- ・ これまでの南千住グループの具体的なアイデアとして、「ボランティア活動員制度」、「地域安全連絡員制度」、「地域と子育て家庭を結ぶ仲介者制度」、「(仮称)民生委員協力員制度養成講座の開催」を提案した。この他「エリアマネージメントの人材の必要性」についても議論をしてきた。
- ・ これらのアイデアを実現化するため、その前段の共通する事として、「私はこういう事なら協力出来ますよ!」という声や申し出を広く区民から集め登録するような仕組みが必要であり、そのための制度や組織運営のあり方について検討を深めたい。南千住エリアだけでなく、区全体での登録制度として検討したい。

【民生委員の活動のあり方と民生委員への支援活動】

- ・ これまで、民生委員の現状について検討した結果、「(仮称)民生委員協力員制度養成講座の開催」のアイデア提案をした。
- ・ アイデア実現のために、民生委員の活動等について議論を深めたい。
- ・ 一人の民生委員の活動範囲は広く、多くの世帯を対象としており、困っている人に眼が行き届かない現状がある。一方で、民生委員が名誉職的な存在になっていたり行政の下請的な活動を行っている等、民生委員の置かれた状況は硬直的になっている面もあるのでは。
- ・ こうしたことから、民生委員、行政と区民の役割分担、柔軟な民生委員活動のあり方、そして民生委員活動を区民がサポートする仕組みについて、区全体を対象に検討したい。

【“一歩踏み込んだ”情報開示のあり方】

- ・ 防犯や福祉に必要な「区からの積極的な情報発信」について具体的に提案した。
- ・ 防犯や福祉に関する区からの情報は、とりわけ個人情報保護の観点から限界がある。また、警察が家庭を廻って情報集めをすると嫌がられたり、国政調査すら拒否されることがあり、個人の情報は出たくないという意識が強くある。
- ・ しかし、今の情報開示では、身近に起きている孤独死や地震などの災害時等に、区民が自主的に的確な対応が取れない。
- ・ 区民の役割や責任を踏まえ“一歩踏み込んだ”情報開示のあり方について、区全体を対象に検討したい。

【「(仮称)65歳式記念式典」事業】

- ・ これまで、「区からの積極的な情報発信」として、「65歳になった人への記念式典」を介護保険制度などの情報を高齢者に伝えるという機会にする提案をした。しかし、高齢者の中には、介護を必要とする人からボランティア活動に参加したいと思っている元気な人まで多様である。
- ・ 「(仮称)65歳式記念式典」は、高齢者の多様なニーズに応える“高齢者の新たな人生の門出”として、行政からの情報発信だけでなく、地域とのつながり方を示す広い観点からの事業として区全体を対象に検討したい。

【行政の申請主義から掘起こし主義への転換】

- ・ これまで「介護保険制度手続きの改善」の具体的方法で「区が積極的に要介護者を掘起こす仕組みをつくる」提案をした。
- ・ 要介護の対象となる高齢者の中には、介護を申請出来ないで困っている高齢者がいる。要介護制度の手続に限らず、福祉に関する諸制度や手続を知らず、申請をしない区民は多くいる。
- ・ このような高齢者は、行政から積極的に働きかけないと救えない。行政も頑張っ情報発信しているし、職員にも限りがあることは理解している。しかし、行政の“待ちの姿勢”としての申請主義から、区民と一緒に真に困っている人を掘起こす“攻めの姿勢”の仕組みを区全体を対象に検討したい。

【空き店舗活用について】

- ・ これまで、地域と子どもとの関わりを持つために「空き店舗を活用した地域の人に関われる子育て空間」を提案をした。空き店舗は、子どもだけではなく、高齢者を含めて広く区民が集えるコミュニティの場であり、商店街活性化策でもある。
- ・ 空き店舗活用について、幅広い視点から区全体を対象に検討したい。

【汐入地区の防犯について】

- ・ これまで「地域の特性を活かした防犯活動の強化」を掲げて議論をしてきた。
- ・ 汐入地区はマンションが多く、地域コミュニティの弱い地域であり、痴漢が出るなど防犯対策が必要な地域である。汐入地区の防犯体制、防犯活動などについて、南千住地区レベルで検討を深めたい。

3.その他

【住民登録をしない人の増加】

- ・ 近年、住民登録をしないで住み続けている人、外国人登録をしない外国人が増えているようだ。地域コミュニティを向上させる上で、住民が地域に責任を持つことが大切であり、住民登録はその一番基本となる手続きである。ルール通りに登録を促進することが課題である。

<荒川グループ>

1. 今年度の振り返り

- ・ 区の事業はたくさんあるが、区民ひとりひとりが実感できているか疑問である。広報などの情報提供についても区民と区の認識のズレがあることが分かった。このズレを明らかにして提言したい。
- ・ 今年度の提案に関連する人たちの話を聞いて、実現の方策を探りたい。

2. 来年度に掘り下げたいテーマなど

【町会・PTA 等との対談と交流の場づくり】

- ・ 町会の『ナンバー3』くらいの人をオブザーバーとして呼び出して参加してもらう。彼らの多くは青年部長等の役職についている 40～50 歳代で、地域の現状のことをよく知っており、問題意識も高いと思われる。
- ・ 町会だけでなく、PTA の委員も呼びかけて参加してもらう。
- ・ その他、福祉、防犯、子育てのテーマで実際に仕事や活動を行っている人、警察などの話もきいてみたい。
- ・ オブザーバーには、今年度、区政改革懇談会で出された、地域や町会、PTA などの問題点の実感について聞いてみたい。
- ・ また、町会によって活動が大きく異なるが、互いに知らないことが多い。町会同士の

- ・ 町会と PTA の連携事例や、一般公募の校長が運営し、PTA を組織していない事例などについて、その成功点と問題点を聞きたい。

【中高生へのインタビュー】

- ・ 子育てテーマの提案に関連して、シニアリーダーの中高生に会って話を聞きたい。

【各分野に関わる会議体の現状と課題の検討】

- ・ 各分野に関わる協議会や会議が数多くあるにも拘わらず区民に知られていない。それぞれの会議は、議論の内容が広く公開されていないのではないか。イベントを行うだけの活動に終わっているのではないかという思いがある。主な会議とその構成員の現状を把握するなどして、統合や強化できないか検討したい。

【地域と連携した迷惑行為の防止】

- ・ 4月から「荒川区良好な生活環境の確保に関する条例」が施行される。また、路上喫煙やケータイを持ったままの自転車運転などの迷惑行為についても区が規制している。これらの規制がどれだけ実際の効果を生むか検証したい。区を取り締まりだけでは不十分で、町会の協力も必要になるのではないか。

【まちなかのバリアフリー】

- ・ 狭い路地に多くの自転車が駐輪されていたり、植木鉢が並べられており危険な箇所がある。バリアフリーや防災の観点から改善したい。

<町屋グループ>

1. 提言書案への意見、修正点など

- ・ コミュニティの現状について「コミュニティの活動に自分の生活を犠牲にしてまでは関われない」は、バランスが大切であるという表現に修正する。
- ・ 「コミュニティの核となる場を既存の施設に設置」で24時間運営するとあるが、実際には24時間運営はハードルが高いのではないかと。明記せずに「運営」とだけ記載したらどうか。
- ・ 「コミュニティの核となる場を既存の施設に設置」で、「運営の専門家」とあるが具体的にはどんな人か分かりにくい。「運営を各種専門家と住民ボランティア、施設管理者で行う」と修正する。
- ・ 「CATVによる地域情報の提供」は手法をCATVに限定しているが、インターネットも含まれる。インターネット上の情報は、高齢者やパソコンを持っていない人は入手できないという課題があるので、「CATVやインターネット等」と表現して、手法は限定しない。
- ・ 行政は、各世帯で情報を入手できるよう、端末を各世帯に設置するための支援を行うことが必要である。「CATVやインターネット等による地域情報の提供」を追加する。

2. 来年度に掘り下げたいテーマなど

【社会貢献への啓発・評価活動】

- ・ ボランティア行為に対する責任を迫られると、区民は萎縮して何も出来なくなる。社会貢献に対する啓発活動を行い、ボランティアについての意識の向上により社会貢献をしやすい環境をつくる必要がある。
- ・ ボランティアを実施しやすい環境をつくるために、社会貢献について評価をすることが大切である。

【ボランティアのあり方】

- ・ 個人単位のボランティア活動は、有償か無償かが問題になることがあるが、個人の判

断に任せるべきであり、それぞれの興味のある分野で活動しやすい方法を選択できる事が大切である。

- ・ 一方で、ボランティアの組織化はサービス提供の継続に欠かせないが、組織の運営にかかる経費の捻出が課題である。
- ・ 行政が実施するサービスと、ボランティアが行うサービスは住み分けが必要であり、補完関係にあるとよい。

【地域における人のつながりの形成】

- ・ 対象者を「高齢者」や「子ども」といった年齢で特定することも大切だが、年齢を区切らずにコミュニケーションをとる事が大切である。

【コミュニティによる支援内容の検討】

- ・ 困っている事の把握やコミュニティで何を支援できるか、困っている人のニーズを把握し、支援内容を検討することが大切である。
- ・ どんな居場所を設置すればよいかの検討も必要である。

3.その他

【福祉制度の見直し】

- ・ 病気で寝たきりになった息子を自宅で介護している。急に外出が必要になった時にヘルパー等を頼もうとしても、行政側は月単位で事前の依頼が必要と言うし、ボランティアは責任を取れないので難しいと言うので、本当に困っている。福祉制度を利用者が使いやすいようにしてほしい。

<尾久グループ>

1. 提言書案への意見、修正点など

- ・ 「地域資源を生かせる拠点の場づくり」について住民の視点から地域課題と役割分担を明確して、情報発信の場としていくことを追加する。
- ・ コミュニティ向上のための具体的なアイデアとして、「拠点が有効に機能するための条件を確保する」ことを追加する。区民に開かれ参加しやすい施設運営を基本にして、地域で活動している人・団体をリストアップし、幅広く参加を呼びかける。また、公募し、皆で運営方法を決めていく。
- ・ 子育ての具体的なアイデア「空き施設を利用した拠点づくり」には、姉妹都市からの外国人や、田舎から両親がたずねてきたときに泊まれるゲストハウスのような機能を追加する。
- ・ 防犯の具体的なアイデア「地域組織と関係機関が情報交換や連携」について、「町会や商店街などの地域組織がインターネットで防犯情報を機敏にやり取りする仕組みをつくる」を「町会や商店街、PTA などの多様な地域組織が防犯に関する情報交流交換する場の形成と、インターネットで情報を機敏にやり取りする仕組みをつくる」と修正する。

2. 来年度に掘り下げたいテーマなど

【尾久地域の住民の活動拠点づくり】

- ・ コミュニティ、子育て、防犯、福祉の各項目で意見のまとめをあらためてみると、共通の課題は、活動拠点としての場づくりである。
- ・ 尾久地域には地域資源や人材が豊富にあり、各々活動をしているがそれが繋がっていないため、効果が十分発揮されていないという課題も共通である。
- ・ これらの活動が交流し繋がることを意図して運営される、地域活動の要になる拠点が一番求められている。

- ・ 尾久地域の区民活動拠点施設の運営や内容は、いろいろな団体や人が話し合えば様々な要望が出ると思う。
- ・ 今までの意見のまとめをうけて、地域のリーダーが集まり話し合いが出来れば一歩先に進むと思う。

【地域組織の連携・統合と、地域から協力・共同の仕組みの形成】

- ・ 活動拠点づくりを背景に、町会や地域のいろいろな団体を統合した地域組織が必要になっていると思う。
- ・ 地域で活動する人・団体を、区及び区民の情報をあわせてリストアップし、幅広く参加を呼びかける必要がある。
- ・ そして、地域団体の特色と得意分野を生かし、住民の視点から戦略的な役割分担と協力・共同の仕組みをつくっていく。
- ・ 地域課題解決と地域活動の活性化の視点から、活動の協力・共同を進めて活動補助金の統廃合を考え、“選択と集中”で金と人を活かすことが出来る。

【地域イベントの開催】

- ・ 昔は縁日が活発で、遠くからも尾久に人が来た。
- ・ 平成21年は日暮里舎人ライナー開通1周年に当たるので、区政改革懇談会の内容もPRしつつ、商店街と協力して縁日の復活を行いたい。尾久に引っ掛けて、“オグンチ祭り”と称した。

[意見用紙から] (深く議論してみたいと思うテーマ)

- ・ 縁日の復活にてこ入れ。
- ・ 街のたたずまいについて

3.その他

【メンバーの提言私案「尾久地域再生のシナリオ」の配布について】

- ・ メンバーの提言私案「尾久地域再生のシナリオ」としてまとめたものは、これからも大変参考になるので、今日の尾久グループの参加者に配る。

[意見用紙から]

- ・ 次年度における具体化アプローチの手法に賛成である。荒川全体についての検討は、具体化アプローチが各地域でまとまった後(次々年度)に実施すればよい。そうでなければ、また総論的なものに戻ってしまう。
- ・ 新メンバーの加入については、必要な範囲で行うことも可としたらどうか。例えば、今年度メンバーからの推薦などがあればいいと思う。
- ・ 必要に応じて、行政や事業者・企業などからゲストを招くこともしてほしい。

<日暮里グループ>

1. 提言書案への意見、修正点など

【地域コミュニティ】

- ・ 課題「コミュニティは限定的な範囲にこだわらず、広く捉えるべき。」について、コミュニティはもはや町会だけでなく、PTAや市民活動グループなどのテーマ型組織が重要な役割を担うようになっている。課題として「組織間の相互ネットワークづくり」が大事である点を追加する。
- ・ 具体的なアイデア「地域をつなぐコーディネーター役をつくる」について、コーディネーター役の必要性はあり、その人材育成は重要な課題である。しかし、コーディネーターを町会で雇用することについては賛否があり、次年度の課題とする。今回の提言には、コーディネーター役の必要性までとどめておく。
- ・ 町会になるべく多くの人に参加してもらうように、行政がまんべんなく情報提供や啓

発活動をすることが重要である。プライバシーの問題など地域だけでは難しいことがあるはずで、その部分を行政が支援すべきである。具体的なアイデアとしてこの内容を追加する。

【子育て】

- ・ 39 ページ現状の「子どもが参加したいイベントが少ない」は、親が子どもに参加させたいイベントが少ない、という主旨に修正する。

【防犯】

- ・ 42 ページ現状の「町会の自主性に委ねられる区の防犯事業」については、主旨を分かりやすくするために「行政の防犯施策の実効度は町会によってムラがある」に修正する。
- ・ 42 ページ課題の「町会の透明性確保と活性化」について、「世襲化」しているのではなく「町会の魅力や役割がなくなってきている」から希薄化しているという内容が伝わるように修正する。後半については、隣組のような昔の共同体組織は今の時代に合わなくなった、今の時代にふさわしい社会の構造をつくる必要がある、という主旨に修正する。
- ・ 42 ページ課題の「必要な人に必要な支援ができる町会活動」は、1. 地域コミュニティに出ているのでここでは削除する。

【福祉】

- ・ 44 ページ課題の「地域での見守り活動の充実」について、「全ての情報を知らせる必要はなく」は、誤解を与える表現なので削除する。
- ・ 町会の役割として地域コミュニティの中での見守りがある。地域の見守りに必要なのは、和の関係、助け合う関係であり、それをつくるのが町会の重要な役割である。
- ・ 44 ページ具体的なアイデアの「プライバシーの体系化」の意味が分かりにくいので表現を修正する。
- ・ 44 ページ課題の「民生委員の活動の充実」と、45 ページ課題の「民生委員の活動の充実」について、「地域住民は深入りせず」など誤解を与える表現があるので文章の前半を削除する。
- ・ 45 ページ「民生委員と町会の連携強化」は、「町会の活動にも参加してもらい、民生委員の活動をもっと知ってもらおう」という主旨の内容を追加する。

2. 来年度に掘り下げたいテーマなど

- ・ 地域と交流するきっかけとなる場づくり
- ・ 地域をつなぐコーディネーター役について

【意見用紙から】

- ・ 地域の町会や PTA などのコミュニティ組織を取材し広報する「地域メディア（コミュニティメディア）をつくり、ポスティングや新聞折込等で広報してはどうか。現在の懇談会で分けている5地域それぞれで、地域メディアをつくり発信していく。

3. その他

【意見用紙から】

- ・ 町会や PTA の人たちは、シンポジウムではなく、そもそも懇談会の委員になってもらってはどうか。提案をより具体化するのであれば、みんなでいっしょにやっていく姿勢が必要である。
- ・ グループの議論を聞いて、背後に行政組織の縦割りが透けて見えた。行政組織の横連携、相互コーディネーションの必要性を感じた。

以上